

令和4年度 政策討論会 第三分科会(第2回) 要点記録

・日時 令和4年8月18日(木)

・場所 第2委員会室

・会議時間 10:00～11:05

・出席者

岸田 厚(座長)

友永 修(副座長)

反甫 旭

南 加代子

井舎 英生

京西 且哲

岡林 憲二

(座長、副座長以下は議席番号順)

・議事内容

1. テーマの提案者から事前に、岸和田産業振興計画や総務管財課所管の資料等を配布いただいた。その内容は、
 - ・市内の事業所数と従業者数の推移(①産業全般の動向②雇用の動向)
 - ・一般職業紹介の状況 産業分類別事業所及び従業者数
 - ・岸和田市産業の現状分析の総括
 - ・岸和田市の企業立地促進支援制度(参考資料) 等で、その説明と質疑を行った。
2. 本市の現状を調査したところ、4つのキーワードがポイントになると考えられます。
 - 1、若者が望む職種が少ない。
 - 2、事業所が減少している。
 - 3、職場が自宅から遠い。
 - 4、支援制度が無い。国は、新型コロナウイルスの感染症対策を含んだ「デジタル田園都市国家構想」をもって地方創生を進めていることから、本市において企業や工場の誘致だけでなく、東京に本社を置く成長企業のサテライトオフィスを誘致することにより、働く場所を増やし優秀な人材の流出を止めるべきとの意見が出された。
3. また、産業高校や岸高、和泉高や近畿能力開発大学校などの現役学生にも「若者が望む職種」について、どのような職種があるのかなどを調査すべきではないかとの意見も出された。
4. 次回は、9月29日(木)10時～で、産業政策課を招聘し意見交換する予定。
◎発言要旨は以下の通り(順不同)

●新・産業ビジョン岸和田に記載されている「若者が望む職種」とは、どのような職種かを魅力創造部に聞きたい。

IT 分野も若者に人気があるとすれば、産業高校や岸和田高校、和泉高校や近畿能力開発大学校なども調査したら良い。

岸和田にIT 分野で起業している会社はどの程度あるのか？魅力創造部に聞きたい。

大阪府内でサテライトオフィスに関心ある会社の調査ができればよい。

市民の中に、大阪市内での IT 企業家がいるので意見を聞きたい。

2, 3社でも良いのでサテライトオフィスへ誘致して、それを PR 材料にできると良い。

大阪の企業に対してサテライトオフィスの需要調査をしたい。以上

●参考資料の中に出てくる『Society5.0』の意味を調べたところ、様々な意味がある中で、仮想空間と現実空間を融合させた科学技術基本計画という意味もありましたので、産業分類別事業所及び従業員数という表の中の産業大分類の『L(学術研究、専門・技術サービス業)』にも関連すると思いました。『L』の推移を見ると、横ばい・微増という感じなので、今後調べたいと思います。参考資料の中の『雇用の動向』で、泉佐野市の「市内在勤率」「昼夜間人口比率」が気になるので、これも今後調べたい。そして、閑空絡みのオフィス等なども、岸和田に誘致できないかどうか、今後考えてみたい。

●サテライトオフィスを誘致するうえで、本市の現状を調査した結果、次の4つのキーワードがポイントになると考えます。

1、若者が望む職種が少ない。 2、事業所が減少している。

3、職場が自宅から遠い。 4、支援制度が無い。

東京の一極集中を是正するために、国は地方創生の政策を打ち出すも流れを止めることに至らなかったことから、新型コロナウイルスの感染症対策を含んだ「デジタル田園都市国家構想」をもって、地方創生を進めています。

本市は泉州地域の中心に位置することから、企業や工場の誘致だけでなく東京に本社を置く成長企業のサテライトオフィスを誘致することにより、働く場所を増やし優秀な人材の流出を止めなければなりません。

特に、成長分野である IT 関連企業のサテライトオフィスを誘致すべきと考えます。

●サテライトオフィスを考えた時に、IT 企業に限られるのではと考えが偏っていた。しかし、地方の営業拠点として簡易な事務所、いわゆるサテライトオフィスを設置すれば、本社が全国他市であっても業務が出来る。もちろん IT 企業に越したことはないが、柔軟に考えることができた。しかし、やはり魅力がないと誘致は厳しい。そのために行政の支援の充実と広く広報活動(営業活動)をする必要がある。

●岸和田には優秀な人材がいるという話になっているが、今の時代どの地域にもIT企業で働くことのできる人材はいるので、何か工夫が必要ではないか。